

まだある、自分のトリセツづくりのヒント-1

トリセツのバージョンアップで次世代のロールモデルに

室井宏之さん 分科会 | 男のよろいを脱ぐ 男女の『らしさ』からの解放。から

就職支援の仕事をしていると、社会的な選択肢は今なお男性有利にも関わらず「区別なく採用すると女性ばかりになってしまうので男性にゲタを履かせる」という話が聞こえてきます。実は男性は、こんなふうに甘やかされた、弱い存在だということです。

しかし男性は「男らしく、弱音をはかず、がまんして、戦う」べきと、鎧(よろい)をまといます。代表的な鎧が会社名や肩書です。怖くて脱ぐことができません。そのうち鎧そのものが自分だと錯覚します。退職後もそれが邪魔をして地域社会に溶け込めず、家庭内での居場所まで失うことにもなります。女性の活躍の幅が広がり、働くことが標準になった今、男性のアイデンティティがピンチです。

鎧を脱ぎましょう。男性も炊事・掃除・洗濯などの生活力を身につけましょう。「男らしく」がんばらなくてよいです。「漢(男の中の男)として」、やらなくてはいけないことはまず、大切なパートナーとの関係構築です。その際、完全に理解し合っているなんてあり得ない、と心得ること。できるのは、お互いに認め合い、そして歩み寄ることです。「自分のトリセツ」づくりは、そのよいきっかけ。男性も

作って、自分を見つめ直しましょう。特に、自分の弱さや不得手を把握し、それを自ら認めて、パートナーや家族にも発信してください。それがお互いを認知する契機となります。

そもそも男女ではなく、個々人の違いがあるだけです。男女関係なく「自分のトリセツ」を作って「その人らしさ」を発見しましょう。

そのうえで「ちょっとがんばりたいこと」を見つけて実践してください。今より「ちょっと上の自分」を目標に。キャリアは一日にしてならず。人生100年時代。スキルアップを重ね「自分のトリセツ」をバージョンアップしていきましょう。そしてあなたが、子どもや孫、友人や後輩のロールモデルになってください。

気づきメモ

このページで気に入った言葉をメモしてみましょう。

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....



室井 宏之さん

二松学舎大学キャリアセンター勤務、
男性学研究家、男子力アップセミナー
「男塾」塾長。我孫子市在住